

今月の Pick Up

編集室がピックアップした旬な話題をお届け！
詳しくは各ホームページをご覧ください。

01 第73回高知市納涼花火大会に行こう！



ことしも約4,000発の花火が夏の夜空を彩ります。観覧会場内は全席有料で、チケットをお持ちでない方は入場できません。また、周辺では通行規制を行います。

日時 8月9日(水) 20時～21時

※荒天の場合は8月13日(日)

会場 鏡川河畔みどりの広場

観覧チケットの購入方法

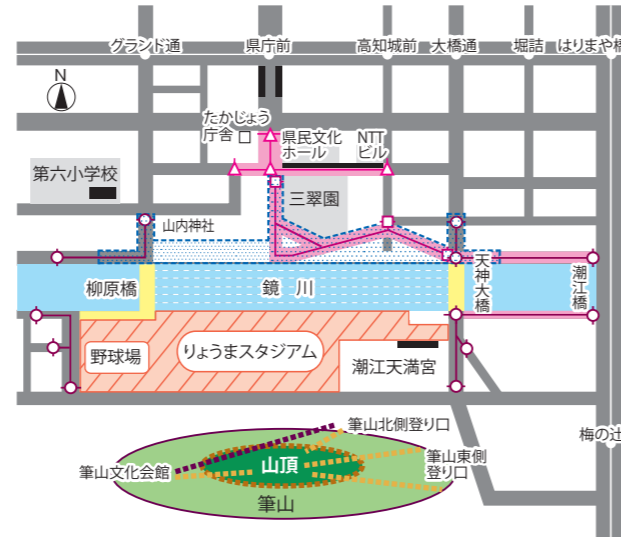
▶販売開始 7月20日(木) 15時から

▶購入方法 市観光協会HP、またはセブン-イレブン店頭端末(チケットぴあ・Pコード: 650-868)から

席種・料金

- マス席(定員4人まで) 5,000円/6,000円
- 1人席 1,000円/1,700円/2,000円

- ※購入方法により別途手数料がかかります。
- ※同じ席種でも席の位置によって料金が異なります。
- ※このほかテーブル席、車いす席、カメラ席があります。詳しくはホームページをご確認ください。



観覧会場	16時半～花火終了	筆山文化会館～山頂立ち入り禁止	12時
車両通行禁止	16時半～22時	筆山東側登り口～山頂立ち入り禁止	22時
車両通行禁止	17時～22時	筆山北側登り口～山頂立ち入り禁止	18時
車両通行禁止	18時半～22時	筆山北側登り口	22時
駐車禁止	7時～23時	筆山文化会館立ち入り禁止	9時～22時
立ち入り禁止	6時～24時	鏡川(柳原橋～天神大橋)	航行禁止
立ち入り禁止	19時～22時		
臨時駐輪場	17時半～21時半	※天神大橋はチケットをお持ちの歩行者のみ通行可	

花火を観覧するときは、通行の妨げにならないようご協力ください。

【問い合わせ先】市観光協会 ☎ 823-4016

02 5歳以上の全員が対象！ 9月から新型コロナワクチン追加接種が始まります



冬の感染拡大に備えて、9月以降、新型コロナワクチンを無料で追加接種できます。詳しくは、国から具体的な情報が示され次第、ホームページに掲載します。

対象 5歳以上の方

回数 これまでの接種回数に関係なく1人1回

接種券について

- ① 未使用の接種券(3～6回目用)をお持ちの方
お持ちの接種券で接種を受けてください。紛失した方は再発行の手続きが必要です。
- ② 前回接種で接種券を使用し、接種券がない方
前回接種日に応じて、8月下旬頃から順次接種券をお送りします。

【問い合わせ先】新型コロナワクチンコールセンター ☎ 0120-920-737 (12月29日～1月3日を除く9時～17時)



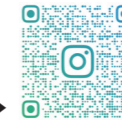
本市出身の漫画家・イラストレーター窪之内英策さんによる、よさこい祭りを題材とした作品。静と動の2枚で対になっています。詳細は特集(4・5ページ)をご覧ください。

DATE ■ 2023年7月完成
MODEL ■ 踊り子

高知市の SNS

オーテピア高知図書館
[otepia_kochi_toshokan]

フォローはこちらから▶



オーテピア高知図書館の行事や講座案内、イベント・サービスの紹介などを発信しています。また、「オーテピアティーンズ部の本棚」として、高知の中高生世代から寄せられたお薦め本の紹介も行っています。

高知市の人口と世帯

令和5年7月1日現在

人口(前月比) ▶ 31万7,599人 (-233人)

男	14万8,538人 (-132人)	増加	出生127人	転入等517人
女	16万9,061人 (-101人)	減少	死亡311人	転出等566人

世帯(前月比) ▶ 16万4,576世帯 (-6世帯)

増加	転入347世帯	その他172世帯
減少	転出313世帯	その他212世帯

おらんく家の元気人! Vol.5



profile >>> 田中 友之 Tanaka Tomoyuki (25)
高知市出身。とさっ子タウン 2023 副実行委員長。大学1年生のときにボランティアとしてとさっ子タウンに関わったことをきっかけに、社会人となった現在も、企画や運営に携わっている。

自分自身が楽しむことを原動力に

「単なる職業体験で終わらせないように、子どもたちが自分の意志で選び、経験することを大切にしたい」—そう話してくれたのは、「とさっ子タウン」に副実行委員長として携わる田中友之さん。

「とさっ子タウン」は、毎年夏休みの時期に現れる子どもだけのまち。大人は入ることができず、子どもたちが「市民」となって運営します。働く「給料」がもらえ、タウン内で買い物ができるなど、体験を通して、現実の社会やまちに関心を持つきっかけをつくる取り組みです。

田中さんが喜びを感じるのは「子どもたちが自ら考えて行動する後押しができたとき」。実社会の義務にと

らわれず、ありのままの自分で接しているからこそ、子どもたちに届く思いがあるのかもしれない。

田中さん自身も、学生や社会人などさまざまな立場の人と関わることで「多様な価値観を知り、自分の新しい一面を発見できた」そうで、楽しみながら取り組んでいるのだとか。

今後も「子どもたちが創意工夫して、わくわくできるような場にしていきたい」と語る田中さん。「毎年同じとさっ子タウンはない」との言葉どおり、とさっ子タウン、子どもたち、そして田中さん自身も進化し続けます。



▲小学4年生のとき「市民」として初めて参加(右)